

# 新名勝指定！ 朽木池の沢庭園



▲今も残る遣水状の流れ

「お庭はお掃除が肝心・・・」。

日本庭園の美しさは日頃の手入れと丹念な掃除によって維持されます。現在、古くから残る名庭園の多くは、長年の風雪や人による改変などにより、造られた当初の庭園景観は留めず、当初の姿を觀賞できないものがほとんどです。

朽木池の沢庭園は、高島市朽木村井に所在する平安時代末期～鎌倉時代前期（12世紀後半～13世紀



国道367号線

前半)の庭園跡ですが、当初の庭園の様子をよく残していることから、平成23年11月に国名勝「朽木池の沢庭園」として指定に向けての答申がされました。高島市内では朽木岩瀬の興聖寺境内にある「旧秀隣寺庭園」に続き2件目の国指定名勝庭園となります。

庭園の存在は古くから知られていましたが（詳細は「広報たかしまNo.13」参照）、造られた年代やどのような庭園であったかなどの詳細を明らかにする目的で、平成18～21年に市教育委員会が発掘調査を実施しました。

庭園は、安曇川の旧河道の窪みに山裾からの湧水を溜めて池を造り、露出する岩盤を築山の景色に取り込むなど、自然の地形を巧みに利用して造られています。

池については、湧き出た水が緩やかに蛇行するように流れ、石組の落ち口から安曇川へ排水されます。池には、玉石と礫を盛り上げた細長い岬が造られ、岬の先端からは、岩盤を利用した荒磯風石組みを背景に、両岸を玉石礫によって意匠された池の全容を望むことができます。これら池を中心とする庭園は、饗宴の場として利用されることから、曲水宴（流れに杯を浮かべて詩歌を詠む遊宴）などの儀式が行われていたと考えられます。このように平安時代末期から鎌倉時代前期の庭園の姿が、周辺の環境と共に良好に残っている事例はほとんどないため、日本庭園史の空白期を埋める貴重な事例として、国の名勝庭園として保護されることとなりました。これら当時の池の水の流れや石組みなどの庭園意匠は、現在でも自然林の中に顕在することから、四季を通じた庭園の姿を愉しむことができます。皆さんもいしえの趣を残す庭園の姿を実感してみてくださいいかがでしょうか？

### 文化財課

☎(33)4467

### 編集者のつぶやき

表紙は、朽木スキー場30周年を記念して開催された「くつき雪まつり2012」のようすです。猪汁のふるまいやステージショー、雪上宝探し、スノーチュービング体験などが行われました。家族連れなどおよそ2,000人が訪れ、終日大賑わい。私もスキー場に行くのは久しぶりで楽しい気分になりました。スキー場の運営には雪が大切ですが、降りすぎるのも困りもの。日常生活に支障がない程度に適度に降ってほしいものです。  
(広報担当S)

▲朽木池の沢庭園の遠景